②北野　雄一

浅田さんと小生とは共に電機メーカに在籍し、同じ産業用電機部門に所属していましたが、業務上の直接の関連はありませんでした。彼は時々東芝本社を訪れ、小生とは他部門での技術打ち合わせなどをされていました。そのときには、小生が在籍している限り社内でお会いして、いろいろと懇談しておりました。何時頃だったかははっきりと記憶しておりませんが、お話の中で現在の会社ではしたい仕事が出来ない点もあり、大阪に戻り一から出直したいと思っている旨の話がありました。それから暫くして畑先生のお世話で、計装機器メーカに就職したとの連絡がありました。この経緯は同期生諸氏も良くご承知だと思います。東芝での小生の業務には計装システムは殆ど関連がなかったので､彼のお役に立つことはありませんでした。

彼に会ったとき､「技術士の資格を取ったよ」と言われたので、小生も挑戦してみようかと思いつつ、多忙に紛れそのままになっていました。あるとき、東京都立大学（現首都大学東京）の教授と雑談している時、技術士の資格は取っておいた方が良いと言われ、浅田さんのそのときの話を突如として思い出しました。1987 年 3 月頃のことでした。それから会社業務と併走しながら 4 月の願書提出、受験勉強、8 月の 2 次試験、12 月の面接試験と 1 年間、業務の合間を縫って競争率が数倍程度の難関を切り抜けました。折角取得した資格は東芝での業務には何ら関係はありませんでしたが､技術士という言葉を聞く度に浅田さんのことを懐かしく思い出します。

浅田さんは、大阪の新しい職場で元気にやっている旨、聞き及んでいましたが、小生もまもなく東芝から新日本空調に招聘され､電気･計装部門の立ち上げに協力することになりました。空調では制御が中枢をなすもので、わが国では横河や山武といった所が殆どのシェアを占めています。浅田さんは分厚いカタログと、部下を連れて小生を尋ねてこられ、この中で空調に使用できる計装機器があれば検討してほしいとの依頼がありました。いろいろ検討しましたが、彼の所の計装機器は殆どが電力用であり、空調には使用出来ないことが分かりました。しかし、系統電力の瞬時変動を検出する計器がある事を見つけ、立ち上げ準備をしていた分散型熱併給発電装置に使用できるかもしれないと言ったことがあります。その後も彼が上京される度に会社を訪ねてこられ、仕事以外の雑談もしていた記憶があります。

時が経て、小生が東京ガスに勤務していた頃、彼から連絡がありました。その日は丁度南千住の東京ガス千住研究所で講義をしていましたが、今夜ぜひ会いたいとのことでした。浅田さんの会社の東京営業所は三河島で南千住の隣の駅です。講義終了後、午後 6 時頃に三河島駅で待ち合わせることにしました。彼は当日大船の弟さんの家に泊まるとのことでした。小生の自宅も大船に近いので、そのまま大船に移動。駅前の飲み屋で酒を酌み交わしながら旧交を温めました。その日の用件は、次回の同窓会のお手伝いをしているが、いろいろ知恵をお借りしたいと言うことでした。この同窓会と言うのは、2004 年秋の志摩での同窓会です。その晩は話に花が咲き、帰り際に弟さんが大船駅観音側に車でお迎えに来られました。お見送りした彼の後姿が今生の別れになるとは全く思いもしませんでした。

同窓会が終了した 2004.10.13 に浅田さんから次のメールが来ました。

「北野　雄一　兄

台風一過秋らしい日になりました､同窓会は盛会の内に終わりほっとしています。貴兄には元気な由、大慶です。11 月に大阪にこられる予定とか、足を伸ばして伊勢

にお寄りになりませんか。歓迎します。芦澤さんにも声をかけて、伊勢で歓談しましょう。如何ですか。　　浅田充浩」

このメールに対して同日、次のようなご返事をいたしました。
「浅田 充浩様、芦澤 幸雄様
メール有難うございました。伊豆地方は台風 22 号で被害が出ているようですが、横浜地方はたいしたことはありませんでした。
伊勢へのご招待、有難うございます。11 月 5 日から（高校同窓会で）大阪に行く予定をしていますが、丁度 10 月 18 日から 12 月 10 日までの予定で、拙宅の耐震工事及び改装工事に入る予定です。この間は大体在宅して、工事進捗状況と工事内容を管理する必要があり、時間が無くて残念ながらお寄りすることは難しいかと思います。工事は相次ぐ台風襲来で延期になってしまい、ようやく今頃になって工事を開始します。進捗状況によっては、大阪行きも中止することも考えています。例え行ったとしても、朝の飛行機で出かけ、夜の飛行機で帰宅するというようなハードスケジュールになりそうです。
貴兄にはこの前の同窓会ではお会いできなかったので、(小生の病状から) 今生の別れもしておきたいのですが、折を見て是非お伺いしたいと思っています。それまでしばらく時間をください。折角のお誘いながら、大変申し訳なく思っています。
（後略）　　北野 雄一」

確かこの年の暮れに、浅田さんの奥様から訃報が入りました。一瞬何のことかと思いましたが、浅田さん自身の訃報だったのです。なぜこんなことが起こるのか、小生の先行きが短いかもしれないので、先に今生の別れを小生の方から行おうと思っていたのに‥‥悲しい知らせでした。彼は学生時代に「流浪の旅」という大正時代の唄を良く口ずさんでいました。そしてついに故郷に帰ることもなく旅立ってゆきました。どのような想いで、旅立ったのでしょうか。友人と会うということは、これが一期一会であり、最後になるかもしれないと言う思いで、機会を大事にしなければならないとしみじみと思った次第です。伊勢へのご招待をご遠慮したのが、大きな悔恨でありました。
彼のご冥福を祈りたいと思います。　　合掌

＜浅田さんとともに＞

③久保田　康平

浅田充浩君は、神鋼電機（株）から、技術士であるという腕を見込まれて社員数２５０人余を有する（株）近計システムの社長に就任した。（株）近計システムは、関西電力（株）の関係会社の関西電気商事（株）から製造部門を分離するために作られた会社で、日本有数のオシロスコープや測定器を製造していた会社であった。私が関西電力（株）を退職し関係会社である関西計器（株）の通信部門にいた頃、彼は時々訪ねてきては「製品開発のヒント」を掴もうと色々意見を聞いてくれたり、また　「製造部門の改善点」が見出せないかと　私達の計器修理工場の見学をされていた姿が懐かしく思い出される。

④津田　真臣

浅田君は、律儀な性格で、近計システムの社長をしていた頃には、東京に出てくる毎に電話をくれて、何度か会って話をした事がある。社長業の話は随分面白かったし、また色々参考にもなった。調子に乗って定年後の再就職を頼んだこともあったが、小生が海外出張時に急逝され、惜しい友人を亡くしたものである。改めて心からご冥福をお祈りします。

⑤出水　博造

浅田君とは小生が二度目の西独から三井物産本店に転勤、情報電子機械部に在籍していた時（2000 年 5 月 25 日）、浅田氏が尋ねてこられた。当時大阪の（株）近計サービスの社長をしていて、今後の新規製品開発や商品企画について小生の情報や欧州の新規商品などについて知りたい、又物産関連会社を紹介して欲しいとの事で、その後再三来られました。物産関係会社も紹介し商圏開拓に意欲を持っておられましたし、色々お話しした事を思い出しました。

（後日丁寧且達筆な礼状を頂いて本日探して見ましたが､見つかりませんでした。有れば自筆のものとしてお届けしようと思ったのですが、残念。）